



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第
6号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第6号). 泌尿器科紀要 1958, 4(6): 354-354

ISSUE DATE:

1958-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111613>

RIGHT:

編集後記

地球上の気温は年々高くなっているようだが今年もいよいよ本格的な暑さがやってきた。日本に於ても南方や都会地などは相当の暑さである。女性の服装は軽快で涼しそうであるが男性の背広姿は汗にぬれながらネクタイをしめ上着を着てまことに情けない恰好である。然し嘗て京大衛生学の戸田教授が開襟シャツを提唱せられ、これが段々に普及し今では普通の夏の服装となつてゐるために世の男性は炎熱苦から解放せられている。ここで更に慾を言いたいのはズボンの事である。昔ながらの長ズボンは盛夏になると重く暑く裾の辺は靴に触れ埃にまみれて不潔である。これが何とか短くならないか。そのデザインはその道の専門家に任せるとして、最初は開襟シャツの故事にならつて衛生学者からでも提唱して貰つたらどうであろうか。個人的には仲々実行出来ないから権威ある辺りから世間に呼びかけてほしい。そして日本の夏の気候に適した独自の服装を楽しむようになれば衆生は済度せられるであろう。



以前にも書いたことがあり少し暑くるしい話であるが、文部省科学研究費の配分は当事者にとつても仲々難かしい問題であろうが、我々から見ると充分納得のゆかぬ点がある。実際にはどのような方法で配分が決められるのか知らないがこれは公的の事柄であるから公平に明瞭に多くの人に納得されるようにあつてほしい。近年は重点的に配分せられる傾向であり、それも結構であるが、配分のあつた者となかつた者との差が大きくなるという欠点もある。今年度の泌尿器科に就て言うと総合、各個、試験の各研究費のどれもが配分せられている教室と、そのどれもが全く配分せられていない教室とがある。こんな事は或程度は致し方ないとしても一応考慮せられてもよい。総合研究は泌尿器科として唯一題で、その費用 120万円が十数名の班員に配分せられ、一班員当り 7—8 万円であるが、各個研究は 7 題で一題当り 6—25 万円、試験研究は 3 題で一題当り 48—49 万円となつてゐる。これだけの試験研究費ならば一題を 3—5 の教室の共同テーマで使うのも有益ではなからうか。こういう問題は泌尿器科学会の適当な機関で予め下相談をして置くとか、いずれにしても検討を要する問題である。

購読要項

1. 発行は毎月（年12回）とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. J. Urol., 45：527, 1941。
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部